

地域の明日を医療で支える

長野県立病院機構

独法化4年間の成果と今後の課題

平成26年6月27日



地方独立行政法人
長野県立病院機構

地方独立行政法人長野県立病院機構とは

- **地方独立行政法人長野県立病院機構は**、「長野県行政機構審議会」において検討された県立病院の経営形態の見直し(地方独法化、地方公営企業法全部適用、指定管理者制度)に関する答申を踏まえ、**平成22年4月に発足した法人**

【答申：地方独立行政法人へ移行することは最もメリットが大きい】

- 地域医療への役割と経営責任が明確化される
- 経営の自由度が高く、かつ、県民・議会のチェックが入る

経営健全化を図り、持続性のある安定した経営基盤確立が必要

背景

○ 独立行政法人化前の県立病院の状況

財務状況 平成19年度決算で3億6,656万円の純損失。

(10年間で、平成15,16年度のみ黒字だが、全体として赤字が続く状況)

病院経営を取り巻く環境

国の医療政策の変化
医師不足の深刻化

診療報酬のマイナス改定が続き、病院経営に影響大



地方独立行政法人長野県立病院機構の概要

【県立病院機構の基本理念、目標】

〔基本理念〕 「**県民の皆様により安心して質の高い医療サービスを安定的に提供していきます。**」

- 〔目 標〕
- 1 基幹病院として地域の医療を支えるとともに、高度、専門医療を提供します。
 - 2 地域の医療機関との連携を深め、地域全体の医療機能を向上します。
 - 3 安全・安心な医療を提供し、患者サービスを一層向上します。
 - 4 研修システムを構築し、医師・看護師など医療従事者の育成対策を充実します。
 - 5 業務運営の改善・効率化に努め、安定した病院経営を継続します。

○ 概 要

〔理事長〕 久 保 恵 嗣

〔設立年月日〕 平成22年4月1日

〔病院・介護老人保健施設等〕

須坂病院 〔須坂市〕 338床

こころの医療センター駒ヶ根 〔駒ヶ根市〕 129床

阿南病院 〔下伊那郡阿南町〕 85床

阿南介護老人保健施設

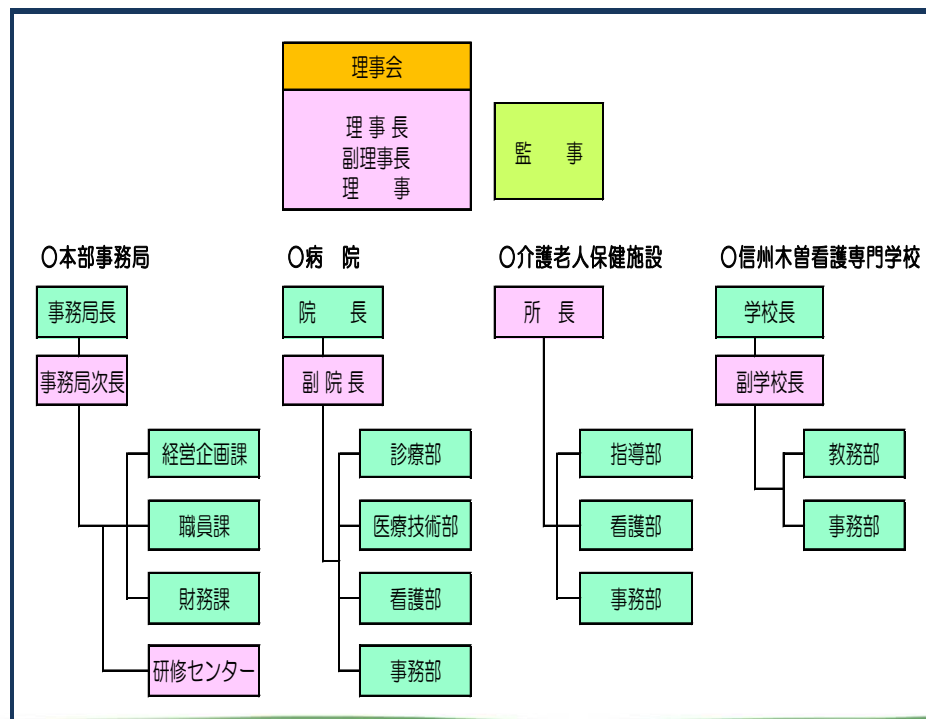
木曽病院 〔木曽郡木曽町〕 259床

木曽介護老人保健施設

こども病院 〔安曇野市〕 200床

信州木曽看護専門学校（平成26年4月開校）

本部研修センター



地方独立行政法人長野県立病院機構の概要(つづき)

○職員数(H26.4.1現在) : 1,403人(うち県からの派遣職員数 : 60人)

○機関 : 5病院、2介護老人保健施設、看護師養成所、本部・研修センター

機関名(運用病床等)	主 な 役 割
須坂病院(252床)	○地域の中核病院 ○県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、また結核指定医療機関及びエイズ治療中核拠点病院として、県の政策的感染症対策の一翼を担う病院 ○臨床研修医及び看護師などの人材育成を担う県立5病院の中核的病院 ○県の信州型総合医養成プログラム認定病院として、総合医の育成を支援
こころの医療センター駒ヶ根(129床)	○精神保健福祉法に基づき県が設置した精神科病院 ○医療観察法指定入院医療機関など、県の政策的精神科医療を担う病院
阿南病院(85床)	○地域の中核病院 ○へき地医療拠点病院 ○阿南介護老人保健施設(アイライフ阿南を併設)
木曽病院(186床)	○地域の中核病院 ○へき地医療拠点病院 ○木曽介護老人保健施設(アイライフ木曽を併設)
こども病院(180床)	○高度小児医療の拠点病院 ○周産期医療の拠点病院(総合周産期母子医療センター)
信州木曽看護専門学校 【平成26年4月開校】 (修業年限3年、入学定員30人)	○木曽及び中南信地域における看護人材の確保・育成及び地域への定着に貢献 ○県立病院の機能の維持・強化に必要な看護師を安定的・継続的に確保
本部・研修センター(須坂病院内)	○県立病院機構の総括(経営企画・人事・財務機能等) ○スキルラボを活用したシミュレーション研修の実践と普及(ハワイ大学との提携) ○信州型総合医の育成支援 ○県内中核病院との連携強化による人材育成ネットワークの構築 ○各病院、各職場別研修へのフォローアップと評価及び総括



長野県立病院及び信州木曽看護専門学校

○ 地域の医療を支える基幹的な病院(須坂、阿南、木曽)及び高度・専門医療を提供する病院(駒ヶ根、こども)の県立5病院並びに看護の社会的役割を担うことのできる専門職者の育成を目指す信州木曽看護専門学校で構成

長野県立こども病院

- 病床数 200床
- 診療科目 小児科(総合小児科・血液免疫腫瘍科・小児集中治療科・新生児科・遺伝科・臨床病理科・麻酔科・産科・循環器小児科・心臓血管外科・神経小児科・小児外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・放射線科・リハビリテーション科・精神科・眼科・泌尿器科・耳鼻いんご科・皮膚科)



こども病院は、一般の医療機関では対応が困難な、特殊又は高度な治療を必要とする小児の疾患を主たる対象として、診断・治療・相談及び指導を行う小児医療施設です。

また、周産期医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担い、出生前後の母体・胎児から新生児に至る一貫した高度専門医療を提供しています。

24時間体制での救急・ドクターカーで地域の医療施設に重症患者さんを出迎える体制の整備、重症な患者さんを診療する小児集中治療室(PICU)など十分な受け入れ態勢も整備しています。

また、生命科学研究センターをはじめとしてエコーセンター、3Dモデル造形センター、予防接種センター、口舌口蓋裂センターなどの専門センターを設置し、小児周産期医療における先進的分野への役割も担っています。

こども病院は小児医療の研修にも力を入れ、全国から病院の魅力を感じて集まった多くの医師の養成に貢献しています。

長野県立木曽病院

- 病床数 259床
- 診療科目 内科・精神科・神経内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科
- 併設施設 介護老人保健施設「アライフきそ」(入所定員50人・通所10人)



木曽病院は、緑豊かな森や雄大な山々が驚えるかけがえのない自然に囲まれ、中山道の街並みが残る木曽地域の医療を守り続けています。救急は24時間365日体制で対応し、がん診療を中心とした急性期医療から里帰り分娩や在宅医療まで、都市部の病院と比較しても標準以上の医療の質とサービスを提供することを目指し、職員一同診療に当たっています。

また、院内の療養病棟はもとより、併設している介護老人保健施設と連携しながら、医療と福祉の切れ目のないサービスを提供しているほか、県立病院で唯一DMAT(災害派遣医療チーム)を組織しています。このほか、赤沢自然休養林での森林セラピーブックや無医地区への巡回診療などの独自の取組も展開しています。

信州木曽看護専門学校

- 開校日 平成26年4月1日
- 定員 入学定員30人、総定員90人
- 課程 医療専門課程 看護学科3年課程



平成26年4月に開校した信州木曽看護専門学校は、木曽の豊かな自然や文化を活かしたカリキュラム、少人数制の丁寧な指導体制、さらに、県立5病院が各々の特性を生かしてバックアップすることで、幅広くそして専門性の高い学びを提供することができることを大きな特徴としています。木曽地域の恵まれた自然と歴史ある環境のもとで、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成します。

地域医療、高度・専門医療、県民の視点に立った医療を提供するという公的使命を持つ長野県立病院機構の学校として、看護の社会的役割を担うことのできる看護人材を育成してまいります。本校の卒業生が、地域医療を支える看護人材として活躍していくことで、地域における保健・医療・福祉の発展に貢献します。

長野県立須坂病院

- 病床数 338床
- 診療科目 内科・精神科・脳神経内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・感染症内科・外科・整形外科・呼吸器外科・血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科



須坂病院は患者中心の医療を理念として、須高地域の中核病院としての役割を果たしています。

22の診療科のほか、24時間体制での救急、海外渡航者外来、ピロリ菌専門外来、内視鏡センター、健康管理センター等を設け、地域の保健・医療・福祉機関との連携のもと、多面的な診療機能を提供しています。加えて、県内唯一の第一種感染症指定医療機関、結核指定医療機関及びエイズ治療中核拠点病院としての機能も充実しています。

また、本部研修センターとの連携により、初期研修医を始めとする医療スタッフの育成とレベルアップを図るためのシミュレーション教育を積極的に取り入れているほか、信州型総合医研修や家庭医療学会認定後期研修を行い、地域医療の現場で活躍する医師の育成に力を入れています。



長野県立こころの医療センター 駒ヶ根

- 病床数 129床
- 診療科目 精神科



こころの医療センター駒ヶ根は、質の高い専門医療や患者さまに信頼される地域医療を提供し、明るく思いやりのある病院づくりを基本理念に掲げ、長野県の精神科医療の中核の医療センターとして「ひらかれた病院」を目指しております。

時代の変化に応えるべく、平成24年3月に全面改築し、開放的環境とプライバシーに配慮した、安らぎや温かみのある癒しの病院として生まれ変わりました。

24時間体制の精神科救急への対応、児童精神科棟の新設、アルコール・薬物依存症診療の充実、さらに、魅力ある多機能テイクアや在宅患者を支える訪問看護、利用しやすい医療福祉相談などにより、患者さまの早期治療と社会復帰支援に力を入れています。



長野県立阿南病院

- 病床数 85床
- 診療科目 内科・精神科・小児科・外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科
- 併設施設 介護老人保健施設「アライフあなん」(入所定員50人・通所10人)



阿南病院は、下伊那南部地域唯一のへき地拠点病院として、地域の医療・保険・福祉機関との連携のもと、患者中心の優しき思いやりのある医療の提供を目指しています。

当地域は高齢者率が4.0.0%(平成24年度調査)と全国的にも高齢化の進んだ地域です。このため無医村地区への巡回診療、在宅への訪問診療・看護・リハビリ、眼科手術の充実、介護老人保健施設の併設運営などさまざまな活動を通じて高齢者への手厚い医療支援に力を入れています。

耐震改築工事により、免震構造でヘリポート付きの新本館棟が平成25年5月にオープンしました。更に、今年度は電子カルテを導入し「より信頼され安心して暮らせるための医療」を推進してまいります。



地方独立行政法人長野県立病院機構

地域の明日を医療で支える

長野県からの指示により作成し認可を受けた 【長野県立病院機構中期計画】

【期間】

平成22年度から平成26年度

【計画の内容】

1 地域医療、高度・専門医療の提供

地域医療、へき地医療、感染症医療、精神医療、高度小児医療、周産期医療及び災害医療の提供並びにがん診療機能の向上、医療観察法への対応、介護老人保健施設の運営に関する計画

2 県立5病院のネットワークを活用した医療の提供、地域の医療機関との連携

5病院のネットワークを活用した医療機能の向上及び地域医療機関との連携に関する計画

3 県民の視点に立った、安全で安心して受けられる医療の提供

より安心して信頼できる医療の提供、患者サービスの向上及び地域との協力体制の構築に関する計画

4 人材の育成・確保、医療に関する調査・研究、県内医療水準の向上への貢献

研修体制と医療従事者確保対策の充実、医療に関する調査研究及び看護師養成所の運営に関する計画

5 柔軟で自律性の高い組織の構築

柔軟な組織・人事運営、職員満足度の向上、多様な勤務形態の導入、経営体制の強化などに関する計画

【財務内容に係る計画】

1 経常収支比率の均衡 中期目標期間内に経常収支比率100%以上を達成する

2 資金収支の均衡 中期計画期間内の資金収支を均衡させる



県立病院機構独法化4年間の主な取組(総括)

〔機構全体〕

- 1 独法化によるメリットを生かした経営
 - ・目的意識を共有した職員、独立採算の組織
 - ・医療機関にふさわしい人事・処遇の実現
 - ・**病院長を中心とした戦略的な運営や迅速な経営判断**
- 2 中長期ビジョンの策定
 - ・**次期中期計画を見据えた「中長期ビジョン」の策定**
- 3 職員の専門性の向上
 - ・**事務職員、医療技術職員のプロパー化の推進**
 - ・認定資格の取得の促進など専門集団としての機能強化
- 4 病院経営体制の強化
 - ・月次決算の導入
 - ・目標管理に基づく経営状況の把握と経営分析能力の向上
 - ・**多職種による組織横断的なプロジェクトチームによる医療の質の向上、経営改善に向けた取組**
- 5 広報活動
 - ・ブランディングの向上
- 6 医療安全
 - ・医療安全管理者による各病院に対する相互点検の実施
- 7 研修センター
 - ・**ハワイ大学への職員派遣と研修の実践**
(シミュレーション教育の指導者育成と普及)
- 8 信州木曽看護専門学校の開校準備
 - ・看護の社会的役割を担う専門職者の育成
 - ・平成26年4月6日開校

〔須坂病院〕

- ・感染症医療の提供体制の充実
- ・7:1看護体制に伴う患者サービスの向上
- ・内視鏡センターの開設、夕暮れ診療所や各種専門外来の開始

〔こころの医療センター駒ヶ根〕

- ・本館棟、デイケア棟など改築工事の終了と診療の開始
- ・医療機能(精神科スーパー救急、依存症、児童精神疾患、医療観察法)の充実
- ・地域生活移行支援(外来、デイケア、訪問看護)の充実

〔阿南病院〕

- ・本館棟の改築工事(免震化)の終了と新本館棟での診療の開始
- ・救急医療及び在宅医療のニーズ(訪問リハビリ)への対応
- ・「地域医療総合支援センター」の開設準備
- ・介護老人保健施設(アイライフあなん)の運営

〔木曽病院〕

- ・診療体制の充実(救急患者、訪問診療、訪問リハ、がん診療)
- ・災害医療(DMAT)の提供
- ・森林セラピー(“木曽路の森”セラピードック)の実施
- ・介護老人保健施設(アイライフきそ)の運営

〔こども病院〕

- ・診療体制の充実(小児救急受入れ体制の充実、発達障害専門外来、セカンドオピニオン外来、3Dモデル造形センター等)
- ・生命科学研究センター、エコーセンター、口唇口蓋裂センターの開設
- ・在宅移行・地域支援体制の拡充



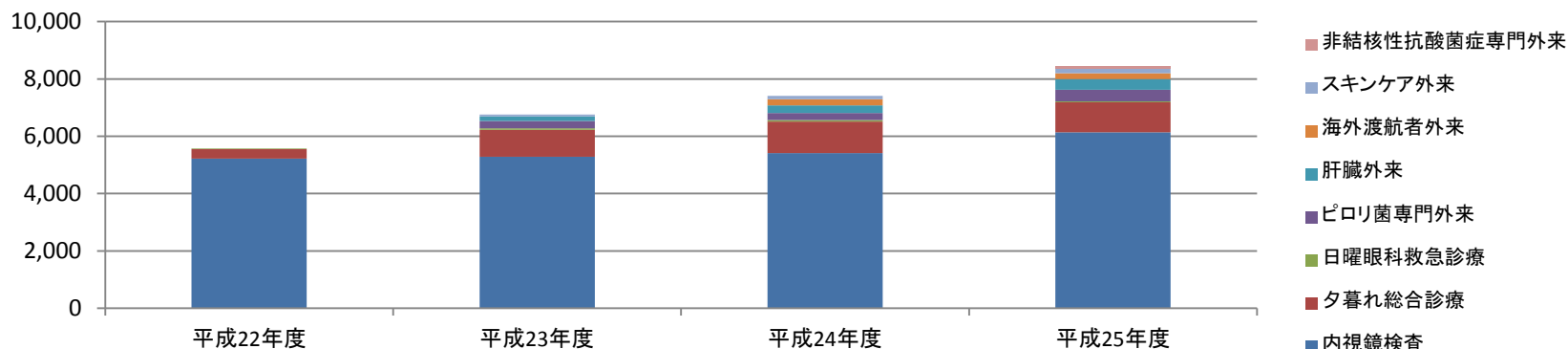
独法化4年間の成果 — 地域医療、高度・専門医療の提供 —

○地域医療の提供

◆地域のニーズに対応した医療の提供・充実を推進！

1 各種専門外来の開設【須坂病院】

ピロリ菌専門外来・肝臓外来・スキンケア外来（H23～）、海外渡航者外来（H24～）、非結核性抗酸菌症専門外来（H25～）開設



2 へき地医療・在宅医療・救急医療の推進【阿南病院】

- ・医師・看護師・薬剤師チームによるへき地巡回診療（阿南町和合2地区へ隔週で実施）
- ・訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ・訪問薬剤指導
- ・訪問リハビリによる在宅生活支援
- ・携帯型エックス線装置、携帯型画像参照システムの活用
- ・ヘリポート活用による救急医療機能の向上
- ・地域医療総合支援センター開設（平成26年度4月）に向けた準備

モバイルPCを活用した電子カルテ入力開始



3 リハビリ機能の充実【阿南病院】

- ・言語聴覚士の嚥下機能訓練、摂食機能と言語障害者への機能回復
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・訪問リハビリによる在宅生活支援

4 町村及び特養等施設への医療支援【阿南病院】

- ・阿南町、天龍村、飯田市南信濃の6施設への継続的な医師派遣
- ・町村乳幼児健診等への受託継続的な医師派遣



独法化4年間の成果 — 地域医療、高度・専門医療の提供 —

○地域医療の提供

◆地域のニーズに対応した医療の提供・充実を推進！

4 地域の救急医療を守る取組【木曽病院】

- ・24時間365日地域の救急病院として夜間診療体制の充実等により救急患者の受け入れを実施
- ・広域消防との救急搬送の事後検証会や早朝勉強会の実施



救急患者の状況

区分	22年度	23年度	24年度	25年度
救急患者数	5,431	5,809	5,663	5,631
《時間外》				
救急車	684	667	650	688
ヘリコプター	6	3	4	4

5 在宅医療の推進【木曽病院】

- ・診療体制の充実により、年々増加傾向（特に、訪問看護、訪問リハビリが増加）
平成21年度 5,008件 ⇒ 平成25年度 5,483件(475件増)
- ・リハビリ室の拡充(H22)、訪問診療車両の拡充(H25)
- ・土曜日リハビリテーションの実施(H23～)



6 へき地医療の推進【木曽病院】

- へき地医療拠点病院【H19.4.1 指定】 木曽医療圏の無医地区:6地区 へき地診療所:2 町村 3 診療所
- ・巡回診療(毎月 第2、第4木曜日 上松町2地区)
 - ・診療所への医師派遣(木曽町 みたけ診療所(H23/11～H24/3) 毎週 水曜日、土曜日)



7 介護老人保健施設の運営【阿南病院、木曽病院】

- ・急性期から慢性期、そして介護へと 切れ目のない医療の提供
- ・定員：入所 50 人、通所 10人（阿南老健はH22年度から定員増 5人 ⇒ 10人）
- ・リハビリテーションの充実：理学療法士 1人 ⇒ 2人(阿南老健 H22～、木曽老健 H23～)】



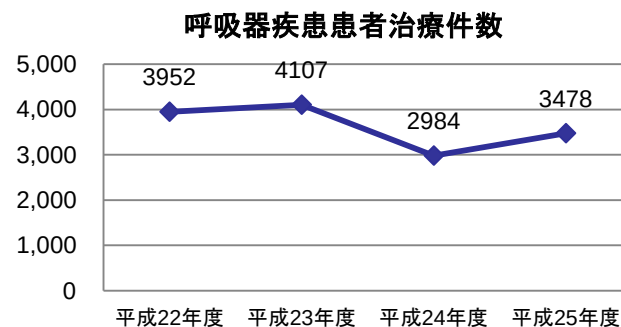
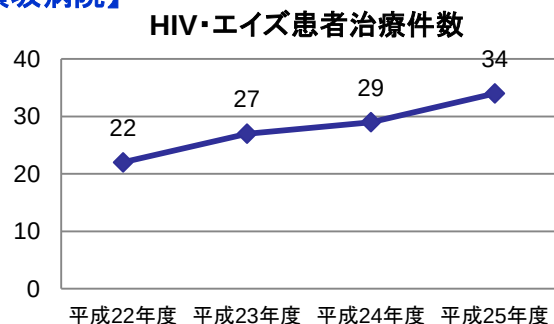
独法化4年間の成果 — 地域医療、高度・専門医療の提供 —

○高度・専門医療の提供

◆県の政策医療として必要な感染症対策や精神医療、高度小児・周産期医療等を推進！

1 感染症医療の提供体制の充実【須坂病院】

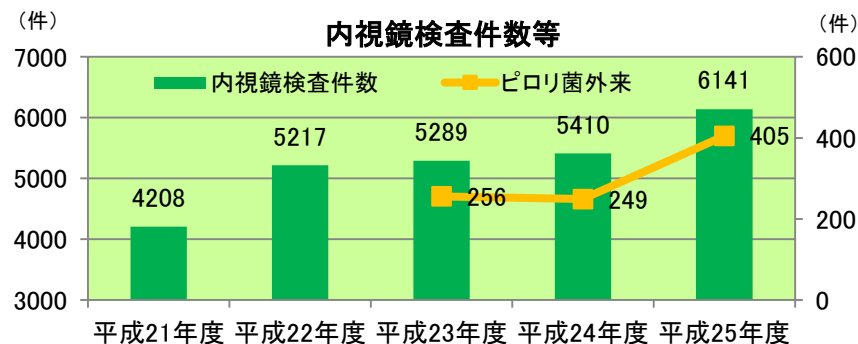
- ・県内唯一の第一種及び第二種感染症指定医療機関として、感染症の発生予防・まん延防止対策を推進
- ・県内唯一のエイズ治療中核拠点病院として、治療の実施及び正しい知識の普及啓発の中核的役割を担う



2 内視鏡センター開設【須坂病院】

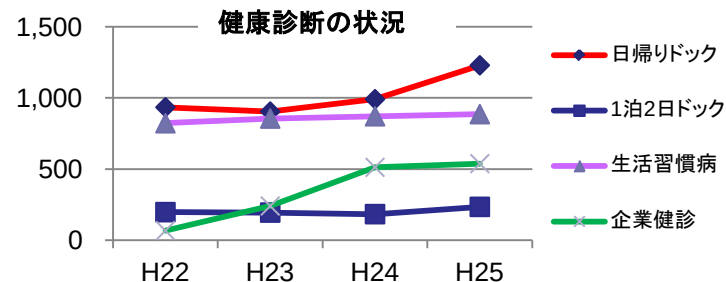
内視鏡検査・治療部門をセンター化し、治療体制の充実(H22年度～<H25年度>)

- ・様々な疾患の早期診断と内視鏡治療を実施。
特に、早期胃癌や早期大腸癌に対し積極的に内視鏡治療を実施
- ・カプセル内視鏡件数: 13件 (H24年度13件)
- ・ピロリ菌外来件数: 延べ 405人 (約310件の除菌を実施)



3 健康診断機能の提供【須坂病院】

- ・レディースコース(H23～)、夫婦割引コース(H24～)
- ・須坂市報への掲載、病院だよりの全戸配布、県庁入口でのビラ配り、ホームページ等の広報活動を実施
- ・リピーターに対する受診案内の送付
- ・予約状況や比較的受診しやすい月等についての広報を実施
- ・日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価Ver.3.0」を受審



独法化4年間の成果 — 地域医療、高度・専門医療の提供 —

○高度・専門医療の提供

◆県の政策医療として必要な感染症対策や精神医療、高度小児・周産期医療等を推進！

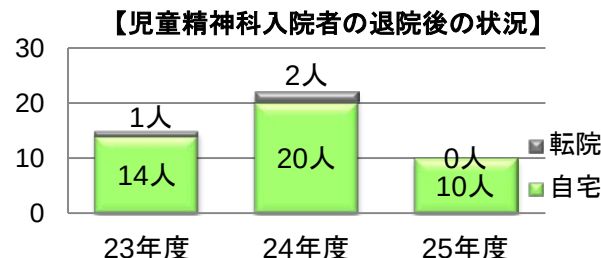
4 県内初の児童精神科病棟を開設(H23.1月～)【こころの医療センター駒ヶ根】

- ・中学生以下を対象とし、「治療の場」とともに「こどもを育てる場」としての機能
- ・治療により多くの児童が家庭へ

児童精神科外来
(児童待合室)



児童精神科外来
(プレイルーム)



5 依存症病棟に急性期治療病棟の機能を追加(H24.11～)【こころの医療センター駒ヶ根】

- ・アルコール依存症患者に、独自開発した治療プログラムを実施
- ・早期の退院とスムーズなデイケアへの移行に寄与(H25デイケア移行者 9名)

プログラム実施者(人)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	72	97	63	71	91

6 県内の救急患者を24時間365日受け入れる体制を確保【こころの医療センター駒ヶ根】

- ・重症精神科救急・急性期患者を24時間体制で県下全域(他病院で対応困難な場合)から受入
- ・個々の患者さまに合わせた治療プログラム、退院に向けた早期リハビリテーションの実施
- ・薬物療法では効果がない難治性の患者さまに治療効果の高い修正型電気けいれん療法を実施
⇒ 4名の方が退院(H24,25年度実施患者 13名)

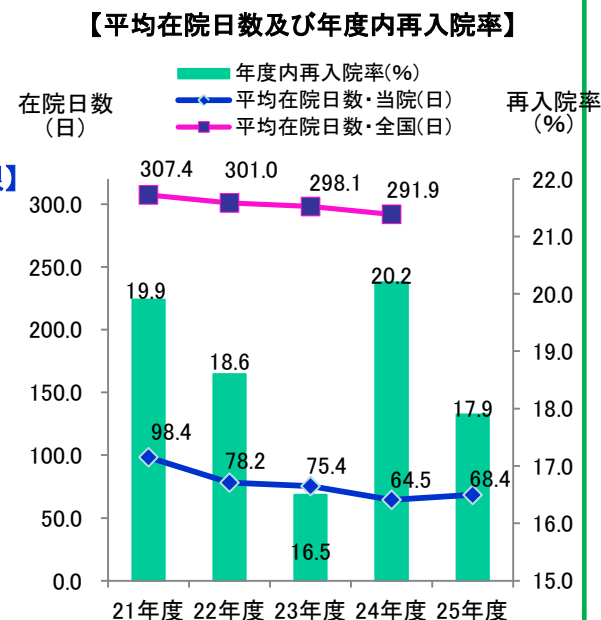
修正型電気けいれん療法実施回数(回)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	—	—	—	32回	148回

7 地域と連携して認知症の治療・相談事業を実施【こころの医療センター駒ヶ根】

認知症の早期の診断・初期治療・相談対応等を地元市町村と協力し国のモデル事業として開始

- ・伊南4市町村認知症医療・介護連携事業(H24.8～) ⇒ 25年度 7件
- ・駒ヶ根市認知症相談・支援チーム事業(H25.11～) ⇒ 25年度 8件

8 精神科救急情報センター(H23.2月～24時間化)【こころの医療センター駒ヶ根】



H23.1.24 : 181床 ⇒ 129床へ



独法化4年間の成果 — 地域医療、高度・専門医療の提供 —

○高度・専門医療の提供

◆県の政策医療として必要な感染症対策や精神医療、高度小児・周産期医療等を推進！

9 がん診療の充実【木曽病院】

- ・がん連携拠点病院の指定を目指し、がん相談支援センターを設置(H22～)。拠点病院に準じた医療を提供
- ・がん化学療法、がん性疼痛認定看護師を養成し、緩和ケアチームにより、がん患者や家族の身体的・精神的な苦痛を和らげる活動を実施(H23～)
- ・医療機器の整備による診断能力をアップ(MRI,320列CT,内視鏡システムなど)
- ・泌尿器科常勤医の設置、がん薬物療法認定薬剤師の育成など、診療体制の充実

最新の医療機器
【320列CT】(H26.3導入)



10 24時間の救急医療体制を構築、小児高度救急医療・地域小児救急医療に貢献【こども病院】

- ・救急専用処置室の整備、24時間の救急担当医の配置(北棟1階、23年2月～)
救急患者数 H21年度 3,832人 ⇒ H25年度 4,291人(上昇率 9.1%)
- ・ドクターカーによる患者の搬送 : 出動回数 H21 361回 ⇒ H25年度 423回(上昇率 17.1%)
- ・関係機関との連携強化



11 医療機能の充実【こども病院】

- ・県下6地域の中核病院と定期的に会議 ⇒ 小児重症治療の質の向上
- ・消防機関との意見交換会(24,25年度県内全広域消防・消防本部から延べ68人参加)

(1) 総合周産期母子医療センター

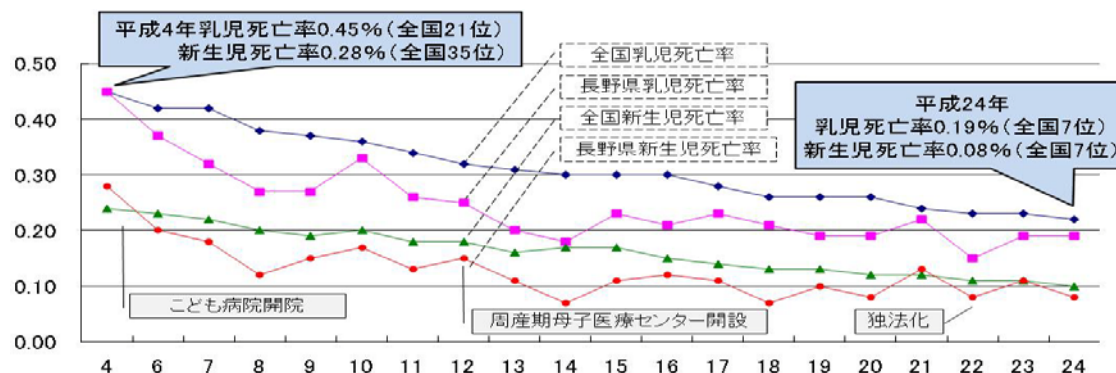
- ・乳児・新生児死亡率が全国でトップクラスの低い水準で推移

(2) 発達障害専門外来(H23.4～)

- ・医師のほか作業療法士や心理士などのチーム医療による全国的にも例が少ない多面的な診療により患者を支援

○患者数

: 23年度60人 24年度98人 25年度96人



◆県の政策医療として必要な感染症対策や精神医療、高度小児・周産期医療等を推進！

・信州大学医学部附属病院及び松本歯科大学病院との間で構成する多施設間協力型
センターの中心的役割を果たしながら全県の治療体制を充実

新規患者数 24年度75人 → 25年度113人

○先天性代謝異常等検査の実施(H25.10～)【こども病院】

- ・タンデムマス法による検査を県から受託し、先天性代謝異常を早期発見・早期治療
- ・精密検査が必要な新生児16例、先天性甲状腺機能低下症(疑い)6名などを診断し、早期治療を実施
- ・25年度 初回検査7887件 再検査453件 再検査率 5.7%

(1) 在宅移行・地域支援体制の充実

国の平成25年度小児等在宅医療連携拠点事業に採択。

県からの受託により多くの事業を展開。全国でも先鞭を着ける事業展開！

- ・長野県医療的ケア児受入施設紹介(資源マップ)のホームページでの情報提供
- ・特別支援学校、病院・施設への訪問支援
- ・在宅医療電話相談外来の開設(H25.12～ 第2・第4火曜日 13時～15時実施)
- ・電子手帳による関係者の情報共有(H26.1～試験稼働)
- ・救急情報提供カードの運用(H25.6～開始) ⇒ 既に救急現場で利用実績
- ・地域の福祉・行政関係者との連携促進(相談支援専門員への研修会など)

特別支援学校 への訪問支援



救急情報提供カード

こどもの名前 [氏名]

受診者の住所 [住所]

所 属 [学校/会社]

電 話 番 号 (0264) [番号]

病 院 病 名 腎臓性筋萎縮症

主治 医師 [氏名]

緊急連絡先の方名 [氏名]

・ オフライン ・ タクレート ・ 24時間ヘルプ

緊急切聞 あり ・ なし ・ なし

緊急留守分機 している ・ していない

緊急方 あり ・ なし ・ なし

特 記 事 項 救急病院内に於いては必ずこの救急 情報の 参考 として
 ・ 特記事項に 注意 (補記)
 ・ 特記事項に 注意 (補記)
 ・ 特記事項に 注意 (補記)
 ・ 特記事項に 注意 (補記)

さらに詳しい情報は [氏名] [氏名] [氏名] 制
 番号 (0264) 22-6700 に問い合わせる

救急内務課 監

[illegible]

(2) 成人移行患者の医療提供体制の充実【こども病院】

- ・信州大学医学部附属病院と連携した成人先天性心疾患専門外来の開設に向けた取組みを実施

独法化4年間の成果 — 地域医療、高度・専門医療の提供 —

○災害医療の提供及び病院の防災対策

◆各県立病院が長野県地域防災計画に基づき適切な医療活動を推進！

1 東日本大震災への支援

- ・DMAT指定病院として1チーム(医師、看護師等を派遣【木曽病院1回】)
- ・長野県医療救護班として医師、看護師、医療技術者等を派遣【須坂4回、阿南2回、木曽3回、こども3回】
- ・こころのケアチームとして医師、看護師、医療技術者等を派遣【こころの医療センター駒ヶ根5回】

【3.11東日本大震災を支援】



2 長野県北部地震への支援

- ・長野県医療救護班として医師、看護師等を派遣【須坂2回】

3 災害医療の確保

- ・災害拠点病院として、食料、医薬品、燃料等を3日分程度備蓄
- ・自家発電設備、衛星携帯電話、災害時優先電話を配備
- ・須坂市消防本部及び須坂看護専門学校などとの協力・連携のもと、患者搬送受入れ及び非常招集訓練(メーリングリスト使用)を実施(H25)【須坂病院】
- ・木曽地域災害時医療救護訓練実施【木曽病院】

【H25木曽地域災害時医療救護訓練(木祖村)】



○医療観察法への対応

◆医療観察法に基づく入院治療を本格的に開始し、社会のニーズに対応

○急性期、回復期、社会復帰期の対象者の社会復帰に向けた治療の実施【こころの医療センター駒ヶ根】

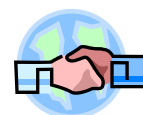
- ・身体症状のある対象者の治療のため、信州大学医学部附属病院、昭和伊南総合病院及び伊那中央病院と救急患者の受入に関する協定を締結(平成24年度)

【医療観察法ユニット入院患者の状況】

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
延べ入院数	—	2	4	6	2
延べ退院数	—	0	4	3	1
年度末患者数	—	2	2	5	6

※病床数：H23.1.24 1床 ⇒ 6床へ

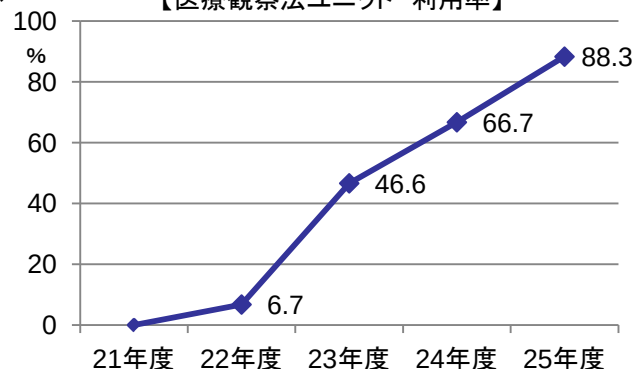
※医療観察法とは：心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律



【病棟内】



【医療観察法ユニット 利用率】



独法化4年間の成果

— 5病院のネットワークを活用した医療の提供、地域医療への貢献 —

○5病院のネットワークを活用した医療機能の向上

◆医療機関が患者データを共有し、スムーズな診療と患者負担の軽減を促進！

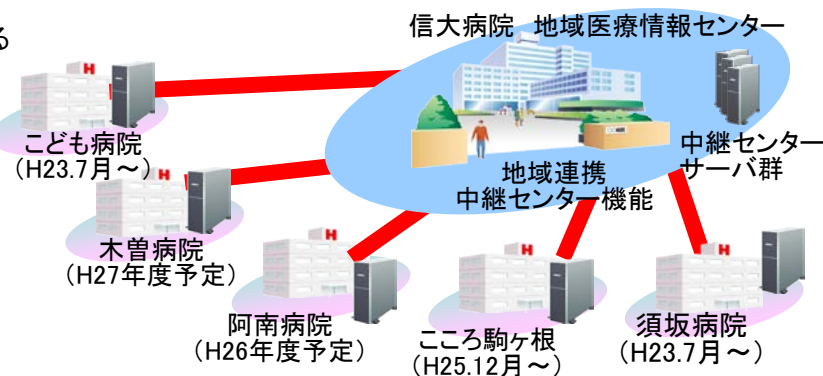
1 地域医療連携システムへの参加

- ・県立病院の電子カルテの導入に併せ、県と信州大学が連携・推進する「地域医療連携システム(信州メディカルネット)」に、順次参加する仕組みを構築(病病・病診連携)
- ・医療機関が患者データを共有し、スムーズな診療と患者負担の軽減を図る

○信州メディカルネット使用状況(H23.7～26.3)

	件		件	
須坂病院	3	こども病院	60	須坂病院
		信大病院	4	
		長野赤十字	5	
駒ヶ根 (H25.12～)	4	南長野クリニック		駒ヶ根 (H25.12～)
		昭和伊南	5	
		伊那中央	2	
こども病院	60	須坂病院		こども病院
		信大病院	47	
		長野赤十字	7	
計	131	計	130	

地域医療連携システムによる病病連携モデル



○須坂病院とこども病院との連携……「小児発達外来」

○阿南病院では、飯田市立病院等との画像連携を目標とした取り組みを平成26年度より開始

2 テレビ会議システムの導入

国のモデル事業を活用したTV会議システムを導入し、医療従事者の技術習得の機会を促進

【例】こども病院の手術状況をリアルタイムに信州大学病院へ！！

H22年度 2件 ⇒ H23年度 5件 ⇒ H24年度 9件 ⇒ H25年度 9件

○『実績件数は、年々増加。今後、益々の医療連携が期待される』



独法化4年間の成果

— 5病院のネットワークを活用した医療の提供、地域医療への貢献 —

○地域医療機関との連携等

◆地域連携室の機能を強化し、関係医療機関との連携を強化

1 地域連携室の機能を強化

- ・須坂病院：地元医師会と連携し、須高休日救急診療室及び須高夜間（水曜日）救急診療室を実施
- ・こころ駒ヶ根：平成25年4月～精神保健福祉士1名、平成26年4月～事務職員1名を配置し患者等からの相談や円滑な受診を体制を構築
- ・阿南病院：飯田市立病院と救急搬送患者地域連携（逆）紹介等、積極的に実施し医療連携を強化
- ・木曽病院：郡内医療機関からの紹介患者に対する対応に関しての症例検討会の開催など、医療連携を強化

【紹介・逆紹介の状況】

区 分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
須坂病院	紹介率（紹介患者数）	36.4%（4,086人）	34.2%（3,738人）	34.2%（3,662人）	31.3%（3,516人）
	逆紹介率（逆紹介患者数）	24.9%（4,070人）	28.4%（4,291人）	29.7%（4,426人）	27.8%（4,671人）
こころの医療 センター駒ヶ根	紹介率（紹介患者数）	— —	— —	44.3%（441人）	50.8%（501人）
	逆紹介率（逆紹介患者数）	— —	— —	24.6%（245人）	31.5%（311人）
阿南病院	紹介率（紹介患者数）	8.2%（331人）	2.5%（140人）	8.6%（226人）	11.9%（279人）
	逆紹介率（逆紹介患者数）	7.3%（455人）	8.1%（464人）	11.2%（531人）	15.0%（548人）
木曽病院	紹介率（紹介患者数）	7.7%（1,111人）	12.6%（1,380人）	13.6%（1,436人）	16.7%（1,589人）
	逆紹介率（逆紹介患者数）	2.1%（1,580人）	11.2%（1,230人）	11.1%（1,176人）	12.1%（1,154人）

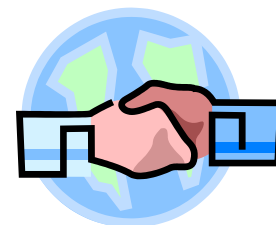
※こころの医療センター駒ヶ根分については、検査のみの依頼、身体科との転院も含む。

2 周産期連携協定の締結【こども病院】

- ・協定締結医療機関：丸の内病院、市立大町総合病院、安曇野赤十字病院
- ・医療連携により、新生児・母体のスムーズな受入を推進

3 救急患者の受入れに関する医療連携の推進【こども病院】

信州大学病院と救急患者の受入れに関する機能分担について覚書を締結（H22.12月）し、医療支援を実施



独法化4年間の成果

ーより安心で信頼できる医療の提供ー

○医療安全対策の実施

◆医療安全対策の向上と医療安全文化の醸成を推進！

1 県立病院医療安全管理者会議

月1回の会議により、病院間で情報共有すべき医療安全対策について企画立案・実施

○医療安全相互点検の実施（H23～）

医療安全管理者による各病院の医療安全体制について相互チェック(査察)



県立病院等合同研究会・長野県看護協会発表会において、取組状況と成果を報告し、医療安全推進を啓発

○『医療安全研修会』の開催

ア 県との共催による研修会(現場の意見を反映した研修内容の選定・実行で長野県全体の医療安全推進に貢献)

年度	演 題	全体 参加者数	内機構 参加者数
22	『医療安全文化の醸成について』	182名	72名
23	『医療安全におけるノンテクニカルスキルの重要性』	234名	89名
24	『ヒューマンエラーの基礎知識：医療安全管理のために』	178名	100名
25	『裁判事例に学ぶ 説明と記録の重要性』	174名	54名



イ 県立病院機構の主催による研修(より実践しやすい内容に配慮し、多職種によるグループワーク形式の「体験型研修会」の開催)

年度	演 題	参加者数 (機構のみ)
24	『院内における苦情・クレーム対応』	59名
25	『医療機関におけるコミュニケーション』	67名



○インシデント等医療安全指標を統一化し公表(H24～) ⇒ 各病院の共通認識による医療安全の推進
○重大インシデント事例(濃厚な処置や治療を要したものは減少傾向)：H24 51件 ⇒ H25 40件 (△11件)



独法化4年間の成果

ーより安心で信頼できる医療の提供ー

○患者中心の医療の実践

◆地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃から努力

1 病院機能評価の認定

須坂病院(平成22年2月5日認定(更新)、Version6.0)

こども病院(平成22年11月5日認定、Version6.0)

木曽病院(平成25年8月2日認定(再更新)、一般病院2<3rdG.Ver.1.0>)

「病院機能評価」とは医療を見つめる第三者の目

病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組み。

評価調査者(サーベイヤー)が中立・公平な立場で、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估。

評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

○認定の効果

地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院として、客観的に評価されています。

(現在、全国では約3割の病院が認定されている)

2 セカンドオピニオン外来の実施

3 院外処方箋発行の推進(調剤薬局の誘致) ほか

○適切な情報管理

○電子化の推進・医療機器の計画的な更新・整備

◆電子カルテシステムの稼働で業務の効率化を実現

1 電子カルテ・オーダーリングシステム稼働

○平成22年9月:こども病院

○平成23年5月:須坂病院

○平成23年12月:こころの医療センター駒ヶ根

○平成25年10月:阿南病院

○平成27年2月(更新予定):木曽病院



○導入後の効果

①医療の質の向上と医療安全

②多職種間の情報共有の推進

③データ入力、参照の効率化

④経営に役立つ情報のデータ抽出推進



独法化4年間の成果

—患者サービスの一層の向上—

○診察待ち時間の改善

◆診療待ち時間と院内アメニティーの改善を推進！

1 待ち時間の調査分析結果に基づき、会計待ち時間を改善【須坂病院】

- ・診察及び会計待ち時間を継続して調査・分析。会計待ち時間を改善（H25. 2月 12分 ⇒ H25. 5月 6分）

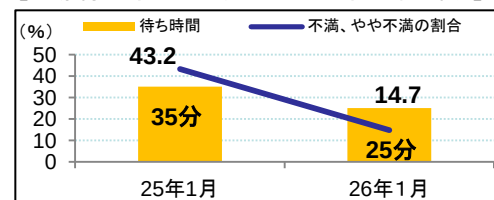
2 外来診療体制を強化し、診療待ち時間に対する不満を改善【こころの医療センター駒ヶ根】

- ・初診予約制の導入（H23. 8～）
- ・常勤医師2名、非常勤医師2名の増員（H25～）

3 電子カルテの導入と予約制により、患者サービスが向上！！【阿南病院】

- ・予約どおりに診察を受けることができた！
- ・あとどれくらい待つのか知ることができた！

【診療待ち時間に対する不満の割合（駒ヶ根）】



4 しろくま図書館【こども病院】

- ・寄附金を活用し、県産材をふんだんに活用し、利用者が癒される空間に全面改修（H24.11）

5 プレイルーム【こども病院】

- ・保育士が遊びを通して発育を促す場などのために、G C Uにプレイルームを整備

6 食堂のリニューアルオープン【木曽病院】

- ・食堂をリニューアルし、照明のLED化、丸テーブル・ソファ席などを設けてくつろげる環境に整備

7 フロアアテンダントの配置（H24.4月～）【こども病院】

- ・来院者の受診や各種手続きの案内、困りごとへのサポートのため、病院のエントランスホールに配置



独法化4年間の成果

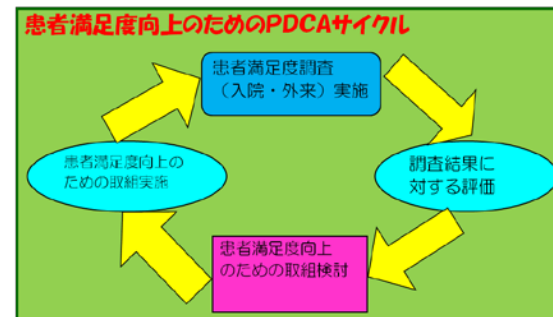
—患者サービスの一層の向上—

○患者満足度の向上

◆ “病院ホスピタリティーの向上”を推進！

1 患者満足度調査

- ・病院別に入院・外来患者の患者満足度調査を実施
 - ・その結果をもとにサービス向上につながるとされる取組を実施
- 【例】 病院あいさつ運動の実施(全病院)
満足度が低かった委託業者の職員教育の徹底(駒ヶ根) ほか



○患者の利便性向上

◆ 患者の利便性向上に寄与

1 クレジットカード決済方式の導入【須坂・こども病院】

○クレジットカード決済の利用状況

	H25		主な導入効果
	利用件数	利用率	
須坂病院	4,235件	3.0%	○H22.12から導入 ・外国人の医療費支払いツールとして利便効果あり ・入院時等、支払い相談の際のツールとして利便効果あり ・現在の利用件数は、開始当初よりも2倍以上増加
こども病院	168件	16.8%	○H25.12から自動決済(シグネチャーオンファイル契約)を導入 ・入院申込書にクレジットカード決済を併記したことで、利便性向上に寄与

2 臨床評価指標(クリニカルインディケーター)の公開(H24～)

- ・医療の質の改善を目的に病院を利用される方が病院の診療情報等を容易に入手できるように、臨床評価指標(クリニカルインディケーター)をホームページで公開

<当初公開：3項目 ⇒ 現在公開：11項目 へ“拡大”>

外来患者数、入院患者数、平均在院日数、病床利用率、分娩件数、ドック・健診件数、救急医療患者数、訪問医療件数、へき地巡回診療患者数、疾病統計分類別患者数、患者満足度調査結果



独法化4年間の成果

—患者サービスの一層の向上—

○患者の利便性向上

◆県立病院ブランドの向上を目指したイメージアップの推進

3 広報活動の推進

○テレビ放映

須坂病院:テレビ天気予報「お天気フィラー」の実施(H24年9月～)

阿南病院:TSBテレビ特別番組「人に寄り添う地域医療を」～くらしを支える県立阿南病院の実践～(H24年6月)

こども病院:SBCテレビ特集「小さないのちを支えて」(H23年7月)

SBCテレビ特集「支えられ 共に歩んだ20年～長野県立こども病院～」(H25年6月)

○新聞特集

阿南病院・木曽病院:「長寿日本長野県(中日新聞 各1回)」(H25年度)

こども病院:「二十歳のこども病院(信濃毎日新聞 全11回)」(H25年度)



○広報誌への掲載

須坂病院:タウン情報誌「長野Komachi」への掲載

○その他

こころの医療センター駒ヶ根:公募による愛称「ここ駒」の決定、使用開始(H23年1月)

阿南病院:公募による愛称「和みの医療センター」の決定、使用開始(H24年10月)



独法化4年間の成果

― 地域との協力体制の構築 ―

○ボランティア団体、市町村等との連携

◆地域とともにある県立病院を目指して

1 地域ボランティアによる数々の支援活動

○ 須坂病院

- ・ボランティアの皆さんと病院との意見交換会を初めて開催(H25年度)し、バスの待合からでも容易に確認できる「大型時計」を病院正面入口に設置しました。
- ・環境整備ボランティアの皆さん相互の連絡会を初めて開催(H25年度)

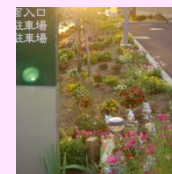
◆須坂園芸高等学校造園技術コース2年生による支援

「患者さん、来院者の心を癒したり、落ち着いた気持ちになってほしい」との思いで、瀬戸内海をイメージした庭園を造成。クリスマスのイルミネーションなどに利用しています。

コンサート



環境整備



○ こころの医療センター駒ヶ根

- ・入院患者に対する各種支援：塗り絵、ビーズ手芸、ミサンガづくり、編み物、習字、写経 などのご支援をいただいています。(1団体)
- ・自助グループによる活動：依存症回復者による体験談、退院患者の家族による入院患者家族への助言 など(会員 5 団体)

◆駒ヶ根市障がい者支援センターたんぽぽの家による喫茶コーナー運営

お客さん(患者さん)も喫茶スタッフもお互いに精神障がい者。
安価でおいしい手作りの食事やデザートを提供し、好評を得ています。

喫茶コーナー



○ 阿南病院 心あたたまる支援を受けています！

- ・地域ボランティアグループ「御供結の会」による花壇などの環境整備や病院祭への協力
- ・阿南高等学校生による壁画制作、イベント時における吹奏楽演奏、手作りイスの寄贈 など
- ・アイライフあなんでは、ボランティアグループによるアニマルセラピー等の開催 など

◆阿南高等学校美術部による壁画制作

地元阿南高校美術部員により、東館多目的ホールへ壁画を制作していただきました！！



独法化4年間の成果

— 地域との協力体制の構築 —

○ボランティア団体、市町村等との連携

◆地域とともにある県立病院を目指して

1 地域ボランティアによる数々の支援活動

○ 木曽病院

- ・療養病棟のシーツ交換、患者待合イス用の座布団、氷枕カバー等の作成、病院敷地の草刈など、8団体約130人が登録しています。
- ・木曽地域の医療・木曽病院を守る会の発足〔設立年月日：平成22年6月〕

◆木曽地域の医療・木曽病院を守る会の発足〔設立年月日：平成22年6月〕

木曽地域の医療に対する理解を深め、住民自らが木曽病院や木曽地域の医療を守る活動を展開
【活動内容】

- ①会員を募集する ②自分に出来る範囲の協力 ③シンポジウム、出前講座等の開催及び協力
- ④ 医療機関、医療関係者との情報交換 ⑤看護専門学校開校に伴うアンケート調査

【25年度活動内容】 地域代表者会議 4回、広報活動 1回、住民集会 1回

【会員数、木曽郡人口に占める割合】 約10,700人、36.7%（平成26年4月1日現在）



地域と連携して地域の医療を守る

○ こども病院

- ・たんぽぽのおうち（長期入院患者家族滞在施設）、保育、託児、お話、しろくま図書館、道化師、院内の飾り物、にがお絵、生け花、中庭のガーデニング、髪きり、院内学級など、31団体312人が登録しています。

◆長野こども療育推進サークル ゆうテラス との協働

「しろくま図書館」を拠点に、こども病院からの委託事業やボランティア事業を実施

○患者家族支援：患者家族の手記や病院ボランティア活動などを紹介した「あしあととらす」の発行（年4回）

こども病院でお亡くなりになった家族のピアカウンセリングの場である「小さな星の会」への協力 など

○病院と連携した各種企画の実施：入院患者の歯科健診、小児在宅療育の学習会、地域家族会・支援者の会との連携 など



独法化4年間の成果

— 地域との協力体制の構築 —

○ボランティア団体、市町村等との連携

◆地域とともにある県立病院を目指して

2 病院祭の開催、地元イベントへの参加、地域住民との交流

- ・5病院において病院祭を開催。
- ・地元イベントへの参加(駅伝大会、夏まつり、健康まつり)
- ・サイトウキネンフェスティバル特別出前コンサートの開催
【こころの医療センター駒ヶ根 H25年、木曽病院 H24年】
- ・ウィーン室内楽アンサンブル「お出かけ・ふれあいコンサート」【木曽病院】
- ・地域住民との交流を目的としたコンサートの開催
(サマー、セタ、オータム、クリスマス、バレンタイン、ひな祭り等)



24年度木曽病院
SKF特別出前コンサート



24年度こども病院祭
辻井伸行さん
ピアノコンサート

3 防災訓練への地域住民の参加

- ・防災協定を締結している地元下平区住民の皆さんなどが参加し、炊き出し訓練及び避難方法、避難経路の確認などを実施【こころ駒ヶ根】
- ・ “ 地元御供区住民の皆さんなどが参加し、夜間総合防災訓練を実施【阿南病院】

4 病院改築に伴うシンポジウムの開催【こころの医療センター駒ヶ根】

- ・H23.3月「公的精神科病院の新たな役割」 ・H24.5月「こころの自由とバランス」

こころ駒ヶ根
炊き出し訓練



5 地元福祉・医療関係機関との交流【Ex. 阿南病院】

- ・町内医療、福祉関係機関交流会(ソフトバレー)及び定例会議の実施



独法化4年間の成果

— 地域との協力体制の構築 —

○ボランティア団体、市町村等との連携

◆地域の資源を生かした新たな事業の展開！

6 森林セラピーとセラピードックの実施（平成18年度開始）【木曽病院（上松町と連携）】

木曽地域の豊かな森林資源と、木曽病院の人材・設備を生かした「森林セラピー」サポート事業

○ 森のお医者さん、木曽路の森セラピードック

- ・赤沢自然休養林(上松町)が開園する5月～10月の間、毎週木曜日、園内の『セラピー体験館』で医師による健康相談を無料で実施。(H25: 92人)

○ 医師と歩く森林セラピー

- ・平成25年から実施、5月～10月の間、毎月 第3日曜日に、久米田名誉院長と赤沢自然休養林の森林セラピーガイドによる説明を受けながら森を散策。(H25 : 4回 36人)

○ 森林浴効果実験への協力

- ・千葉大学などと共同で、赤沢自然休養林で、高血圧に対する森林浴の効果を検証する実験を実施
- ・森林浴のストレス解消や免疫機能の向上と言った効果については立証されているが、病気予防の効果は検証されていないため効果実験に参加

・血圧が下がりました！
・ドクターの話が参考になった
・木の下に寝そべり気持ちよかった～



7 地域協議会との連携

市町村、地域住民の代表、病院支援団体、医療、保健、福祉関係者等が参加する病院連絡協議会を設置し、病院運営に地域の意見を反映



独法化4年間の成果

－人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献－

○研修体制と医療従事者確保対策の充実

1 充実した研修カリキュラムの構築による人材の育成

2 シミュレーション研修等の実践と普及

- ・ハワイ大学医学部SimTikiシュミレーションセンター医療研修への参加とフィードバック
- ・SimTikiシュミレーションセンター教授による県内セミナーの開催

3 信州医師確保総合支援センター県立病院分室設置(H23.10月～)

4 地域医療人研修ネットワーク構築事業

地域医療再生基金事業) の実施<H23年度～H23年度>

- ・県内病院に勤務する医療スタッフの質の向上を図るための多施設連携による講演会・研修会【講演会 全16回、研修会 全6回】
- ・県内医療機関研修参加者 : H23 44名、H24 342名、H25 407名

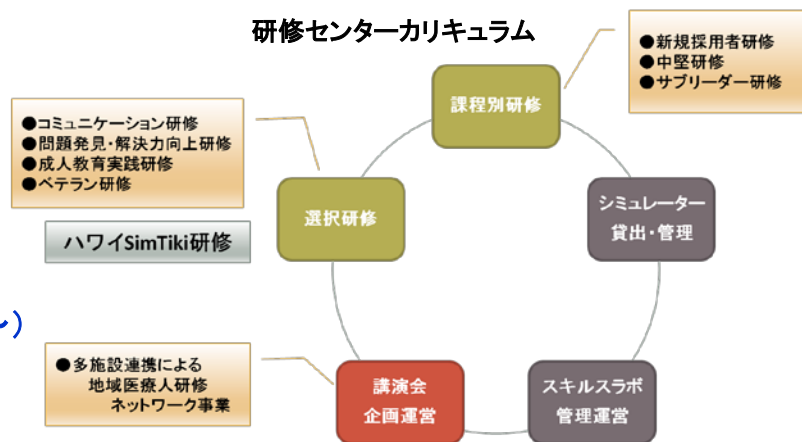
5 『信州型総合医』の育成に向けた体制づくりを推進

<県立病院機構信州型総合医養成プログラムの特徴>

- 県立5病院の特徴を最大限に活かした研修プログラム
- 豊富な臨床の場を提供 : 在宅～2次救急等、数多くの症例を経験
- 福島県立医科大学やハワイ大学などとの教育ネットワークを活用
- プライマリ・ケア連合学会のプログラムに準拠

⇒ 取得できる資格 : ■日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医、■日本内科学会認定内科医

- ◆職員のスキルアップと医療水準の向上に貢献！
- ◆医療従事者の確保に向けた取組を強化しました



<シミュレーション研修参加者の声>

- 現場での研修(後輩、新人、研修医)に活かせる
Ex)・専門領域(皮膚・褥瘡ケア)に関するスタッフ等指導
・インシデントレポートの振り返り
- シミュレーション教育の本場での研修受講の意義は多大



独法化4年間の成果

－人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献－

○研修体制と医療従事者確保対策の充実

- ◆職員のスキルアップと医療水準の向上に貢献！
- ◆医療従事者の確保に向けた取組を強化しました

6 専門看護師資格・認定看護師資格の取得を奨励

『専門看護師及び認定看護師（公益社団法人日本看護協会 認定資格）』資格、並びに『精神科認定看護師（一般社団法人日本精神科看護協会 資格）』資格の取得を奨励し、看護ケアの広がり看護の質の向上を推進

○専門看護師の資格取得状況（H25年度末現在所持者 2名）

H24年度取得実績 1名（こども）

H25年度取得実績 1名（こども）

○専門看護師とは

複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するため、特定の専門看護分野（11分野）の知識・技術 を深めた看護師のこと

○認定看護師の資格取得状況（H25年度末現在所持者 22名）

H22年度取得実績 2名（須坂、こども）

H23年度取得実績 4名（須坂、木曾2、こども）

H24年度取得実績 3名（須坂、木曾、こども）

H25年度取得実績 2名（こども2）

○認定看護師とは

特定の看護分野（21分野）において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のこと

○精神科認定看護師の資格取得状況（H25年度末現在所持者 2名）

H23年度取得実績 1名（駒ヶ根）

○精神科認定看護師とは

精神科の看護領域において、優れた看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師のこと



独法化4年間の成果

－人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献－

○研修体制と医療従事者確保対策の充実

7 医療技術者等認定資格の取得を奨励

医療技術者の専門技術取得を通して医療の質の向上を推進

＜主な取得資格＞

- ・がん薬物療法認定薬剤師 ・精神科薬物療法認定薬剤師 ・細胞検査士 ・認定臨床微生物検査技師 ・超音波検査士
- ・検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 ・第1種放射線取扱主任者 ・NST専門療法士 ・日本糖尿病療養指導士 ほか

8 レジナビフェア等への参加【医師確保と病院PR】

○訪問者 H22年度 29名 H23年度 43名
H24年度 38名 H25年度 83名

訪問者は、年々増加！



9 研修医等の積極的な受入れ・医療関係教育機関への支援

- ・県内の医療人材を育てるため、医療関係機関から研修医、看護学生等を積極的に受入れ
- ・看護専門学校等に、医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、作業療法士等の講師を派遣
- ・実習指定病院として、積極的に研修医、看護学生、医療技術専門学生等を受入れ(須坂)



10 医師研究資金貸与制度の創設（H24.6～）貸与者数 1名

11 看護学生、修学資金貸付制度の創設（H22.4～）貸付者数 170名



独法化4年間の成果

－人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献－

○医療に関する調査及び研究

- ◆治験の効果や安全性を高めるための協力
- ◆大学病院等研究機関との共同研究を通じて医療水準の向上に寄与
- ◆県立病院の調査・研究成果を公開！県民の健康増進に寄与

1 治験への協力

- ・治験審査委員会の毎月開催し議事録をホームページへ掲載（須坂）
- ・アルコール依存症、統合失調症の治験を実施（こころの医療センター駒ヶ根）
- ・製造販売後調査の実施（阿南、木曽）
- ・治験管理室を設置し、機器整備、運用規程の策定等、環境を整備（こども）

【治験実施件数】

	H22		H23		H24		H25	
		新薬登録		新薬登録		新薬登録		新薬登録
須坂	3	1	4		4		2	
駒ヶ根	5				2		3	1
木曽							1	
こども							3	
計	8	1	4	0	6	0	9	1

2 医療に関する共同研究等への積極的な参加

- ・信州大学病院、長野市民病院、千葉大学病院等の医師との共同による研究の実施
- ・日本集団精神療法学会第30回大会の企画運営、研究成果発表に参加 ほか

3 公開講座、出前講座等の開催

- ・感染症、アルコール依存症、発達障害、放射線、
予防接種、食物アレルギー等々の関心の高いテーマにより県内各地で開催

須坂病院公開講座
【ピロリ菌の検査と治療】



公開講座開催状況（H23年度より取組開始）

	H23年度	H24年度	H25年度
須坂		4	
駒ヶ根	1		1
阿南	2	2	2
木曽			
こども	8	4	5
本部			1
年間開催数	11	10	9
参加者総数	1,443	760	869



独法化4年間の成果

－人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献－



看護師養成所の運営

信州木曽看護専門学校 平成26年4月1日開校！！

開校式：平成26年4月6日

入学式：平成26年4月9日

初年度は33名の新入生を迎えスタート



「地方独立行政法人では、新規設置は全国初！！」

2年課程の県立木曽看護専門学校を廃止し、新たに3年制の県立病院機構立の看護専門学校を開設

〔理 念〕

- 1 看護の社会的役割を担うことのできる専門職の育成
- 2 人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力の養成
- 3 生涯にわたって学び続ける態度を身に付け、地域における保健・医療・福祉の発展充実に貢献する人材の育成

〔概 要〕

課 程：医療専門課程 看護学科3年課程

定 員：入学定員30人、総定員 90人

<開校の背景>

- ①へき地医療を担う県立病院（木曽・阿南）の潜在的な看護師不足の解消
- ②地元高校生の進学先の確保と地域への定着
- ③地域の活性化 など



独法化4年間の成果

ー 組織運営体制の構築ー

○柔軟な組織・人事運営

◆経営体制を強化するため、職員プロパー化や相応しい人事制度を構築

1 職員プロパー化の推進

- ・ 医療機能強化のため職員を積極的に採用 ⇒ **発足当時から約250人の増加** (H22.4 1,151人 ⇒ H26.4 1,403人)
- ・ 事務部門強化のため機構職員として採用 (**本部事務局長、4病院の事務部長**(須坂、駒ヶ根、阿南、こども))
- ・ 一方、**県派遣職員**を4年間で**約90人削減** (H22.4 149人 ⇒ H26.4 60人)
- ・ 事務職員の採用 44人(H22 5人、H23 2人、H24 14人、H25 13人、H26 10人)

○職員数の推移

職種	H22.4.1			H26.4.1		
	プロパー職員	派遣職員	合計	プロパー職員	派遣職員	合計
医師	146	14	160	146	17	163
看護職員	710	0	710	845	1	846
コメディカル(薬剤師他15職種)	132	72	204	259	13	272
事務職員	14	63	77	93	29	122
合計	1,002	149	1,151	1,343	60	1,403

■全体…………… 行政組織からの脱却と医療を提供する専門組織への転換

- 看護職員…………… ・7対1看護配置の取得【須坂】
・休止病棟の再開【須坂7階】
・離職率の低下【H21(機構発足前) 11.3% ⇒ H25 5.1%】
- コメディカル… 臨床経験の蓄積を可能とし、医療技術の向上を促進
- 事務職員…………… 診療報酬制度の理解、財務分析などの経営ノウハウの蓄積により、経営の視点から病院運営

2 経営体制強化のための事務部門改革を推進

- ・ 課・係制の導入 ⇒ 各病院に経営企画部門を設置し、経営分析力の向上により **黒字経営に寄与**

3 センター化による専門医療の提供

- ・ 須坂病院 : 内視鏡センターの設置
- ・ 阿南病院 : 地域医療総合支援センターの設置
- ・ こども病院 : 生命科学研究センター、エコーセンター、3Dモデル造形センター、予防接種センター、口唇口蓋裂センターの設置



【こども病院】
3Dモデル造形センター
の3D造形機



独法化4年間の成果

－ 組織運営体制の構築－

○職員満足度の向上

◆働きやすい職場環境づくりへの取組

1 職員満足度調査の実施

- ・職員の意欲、満足の上昇と働きやすい職場環境づくりに取り組む

2 民間アパートの借り上げと看護師宿舎の改修

- ・看護師確保のため民間アパートの借上げ【須坂】
- ・看護師宿舎の改修【阿南・木曽】

3 院内保育所の設置・運営【須坂、木曽、こども】

こども病院【院内保育所】



職員宿舎【アークヒル阿南】



○医療組織にふさわしい人事評価制度の構築

◆指揮命令系統の明確化！

○ 医療機関に相応しい機構独自の人事制度の構築

病院の実情に即した、**分かりやすい職制(職分類)の導入**

- ・主査、副参事等、組織における役割の分かりにくい職を廃止
- ・職務の困難性と責任の度合いに合った給与体系に改正

○多様な勤務形態の導入

◆働きやすい就労環境の整備

1 7対1看護体制取得【須坂病院】

- ・手厚い看護の提供のため、7対1看護基準を取得 ⇒ 経営改善にも貢献
- ・働きやすい就労環境とするため、院内保育所『カンガルーのぽっけ』開設(H24～)

2 育児短時間勤務制度

- ・育休職員の早期職場復帰の支援
- ・修学部分休業制度

カンガルーのぽっけ【須坂病院】



独法化4年間の成果

— 経営体制の強化 —

○ 病院運営への参画

◆事務の簡素化・経費節減に寄与

○プロジェクトチームによる組織横断的な議論・検討【本部・各病院】

○ねらい

病院経営に対する職員の参画意識の醸成と経営企画体制の充実を図る

○取組方法

- ・組織横断的なプロジェクトチームを組織
- ・医療の質の向上、経営改善など病院運営上の様々な課題の解決に向けた取組

<主なプロジェクトチーム等>

ア 医療器械等審査部会【H22～】

- ・医師を部会長に、各病院の医療技術部長、事務担当で組織
- ・更新時期の設定(原則として、耐用年数の2倍以上)
- ・費用対効果の審査
- ・購入年次を調整し、同一機器について複数病院の共同購入を実施

イ 情報化推進プロジェクトチーム

- ・電子カルテの仕様の検討
- ・信州メディカルネットへの参加と推進
- ・スムーズな診療と患者負担の軽減に貢献
- ・阿南病院におけるモバイル端末を活用した訪問診療

ウ 経費節減のための検討チーム【H24～】

- ・「全体最適意識文化」の醸成を目的とし、各病院間で異なる省エネ対策や委託業務などの取組状況について情報交換等を実施
 - ・診療材料151品目や検査試薬66品目のほか、心臓カテーテル関連材料・ペースメーカー等について最低価格へ統一
 - ・本部で一括導入する医薬品の対象品目を“**拡大**”し、精力的・効率的な価格交渉を推進
- 【一括購入品目 : H22年度 1,403品目 ⇒ H25年度 3,398品目 ⇒ H26年4月 3,607品目】

○共同購入実績

【単位: 件】

	購 入 品 目	須坂	駒ヶ根	阿南	木曽	こども
H23	全自動遺伝子解析装置	○			○	
	超音波診断装置			○		○
	血管造影装置	○				○
H24	小児用聴覚検査装置	○			○	
H25	新生児聴力検査装置	○			○	
計	5	4	0	1	3	2

○信州メディカルネット使用状況(H23.7～26.3)

	件		件	
須坂病院	3	こども病院	60	須坂病院
		信大病院	4	
		長野赤十字	5	
		南長野クリニック		
駒ヶ根 (H25.12～)	4	昭和伊南	5	駒ヶ根 (H25.12～)
		伊那中央	2	
こども病院	60	須坂病院		こども病院
		信大病院	47	
		長野赤十字	7	
計	131	計	130	



独法化4年間の成果

— 経営体制の強化 —

○ 経営部門の体制強化

1 診療情報管理士による経営部門の機能強化【各病院】

- ・院長等経営層及び各種会議への経営情報(利用率、入院外来単価、手術件数等)の提供
- ・各種データを分析加工し、新たな視点からの評価指標の作成
- ・病院収入の基本となる診療報酬及び施設基準の適切な運用の確保
- ・看護師等医療スタッフへの経営に関する研修の実施
- ・県立病院診療情報管理士会議と連携し、業務改善活動の実践

診療情報管理士数の推移

(単位:人)

H22年	H23年	H24年	H25年
1	9	11	11



県立病院診療情報管理士会議

2 経営企画会議・運営会議【各病院】

ア 経営企画会議

経営指標等の情報の共有化、具体的な企画・立案・検討による経営強化を目的に毎月開催

イ 運営会議、理事会資料(経営指標)を職員が情報共有

- ・毎月開催し収益確保対策の職員へ意識づけ(診療科別患者数・平均在院日数・稼働額の毎月動態等进行分析)
- ・毎月の収支状況を職員が共有

3 Ex)こども病院での取組

ア 経営分析の強化

- ・経営企画室を常設化(22年7月)⇒「指標毎の診療実績」「診療行為別件数・稼働額」などのデータを新たに取り入れた経営情報の分析など

イ DPC対象病院への移行

- ・24年度準備病院 ⇒ 26年度対象病院移行決定(DPC対象病院として増収、DPCデータを活用した経営分析)

ウ 医事事務(入院業務)の直営化(23年4月)

- ・指揮命令系統の明確化、情報の共有化、レセプトの精度向上の取組

査定率: 22年度0.44%→25年度0.48% 返戻率: 22年度13.9%→25年度6.1%

エ 収支改善への取組

- ・SPDシステムの改編(預託方式による在庫削減。26年度から)
- ・未収金対策(事前に届出したクレジットカードでの自動決済を25年導入)



独法化4年間の成果

－その他業務運営に関する重要事項－

○ こころの医療センター駒ヶ根整備事業（平成24年3月竣工）

※ 県の政策的精神科医療を担う病院

【建築コンセプト】

「～風が流れ光あふれる癒しの空間～」

【病床数】 129床

【主な診療機能】

- 1 スーパー救急（精神科救急入院料）による24時間の救急・急性期医療
平均在院日数の短縮（H25病院全体 68.4日）
- 2 児童の精神疾患の専門医療
- 3 アルコール・薬物依存症の専門外来
- 4 医療観察法の併設型小規格病棟（ユニット）
- 5 デイケア、訪問看護など継続的な地域リハビリテーションの充実
- 6 精神保健指定医や精神科専門医など地域医療を担う医師の育成
- 7 県の精神科救急情報センターを併設

【その他】

「医療福祉建築賞2012」受賞

「第45回中部建築賞」受賞



独法化4年間の成果

ーその他業務運営に関する重要事項ー

○ 阿南病院本館棟の改築（平成26年3月竣工）

和みの医療センター

長野県立阿南病院

※ 長野県下有数の高齢先進地域である下伊那南部地域の拠点病院（へき地医療拠点病院）

【コンセプト】

「～人に寄り添う地域医療を～」
（和みの医療センター阿南病院）

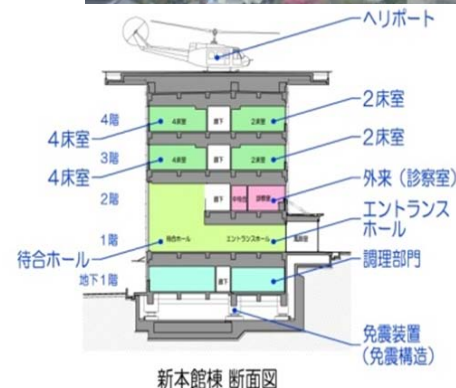
【病床数】 一般病棟 85床

【主な医療機能の向上】

- 1 **免震構造**により、地震など災害に強い病院
- 2 **屋上にヘリポート**を設置し、救急医療体制を充実
- 3 **オール電化厨房**など環境にやさしい病院
- 4 改築に合わせ、平成25年10月から**電子カルテ**を稼働

【東館改修】

旧精神科病棟を「**地域医療総合支援センター**」（「健康管理センター」、「へき地医療研修センター」、「認知症なんでも相談室」）として改修【平成26年4月稼働】



免震装置 参考写真

建物と地面（免震基礎）の間に免震装置を入れることにより、建物に伝わる地震の揺れを減らす「免震構造」を採用します。



経営状況(医業収益、損益の状況)

患者数と医業収益の推移 (～H25年度)

- 医業収益は独法化以後、過去最高額を連続して更新
【H21⇒H25の医業収益伸び率 8.8%】

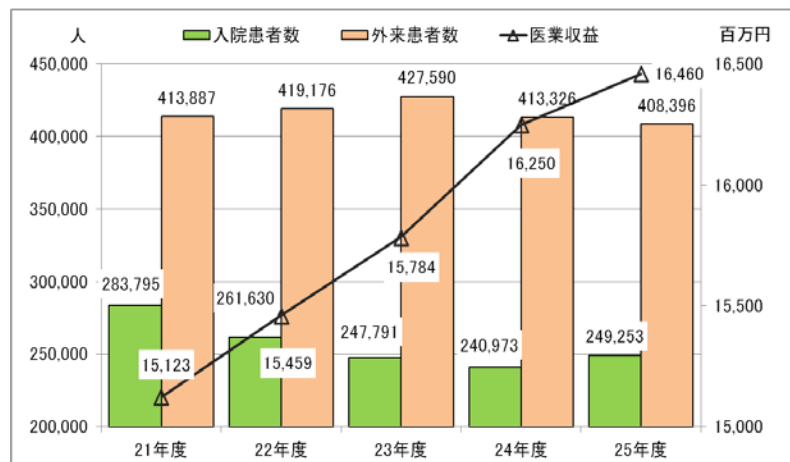
- 患者1人当たり診療単価が増加！

⇒独法化後

区 分		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	【単位：円】 H21⇒H25 上昇率
須 坂	入院	35,810	40,070	40,651	42,475	41,282	15.3%
	外来	9,654	9,515	9,665	10,590	10,780	11.7%
駒ヶ根	入院	15,288	17,380	22,773	25,105	25,632	67.7%
	外来	10,718	10,944	11,160	11,400	11,714	9.3%
阿 南	入院	23,267	25,434	26,239	27,480	26,395	13.4%
	外来	9,064	9,637	9,655	9,894	8,499	-6.2%
木 曽	入院	28,972	32,027	32,789	33,857	35,247	21.7%
	外来	8,961	9,386	9,345	9,907	10,006	11.7%
こども	入院	83,654	82,875	87,115	90,328	86,532	3.4%
	外来	12,665	13,538	14,268	14,642	14,416	13.8%

- 患者数は、減少傾向

医師数の減少、医療圏人口の減少などから・・・



損 益 の 状 況 (～H25年度)

- 独法化後4年間累計で中期計画を上回る経常損益を確保

- 経常収益 : 医業収益の増により、毎年増加
(H21⇒H25 16億6,202万3千円の増加)
- 経常費用 : 職員採用による人件費の増、施設改修による減価償却費の増加
医薬品の一括購入、医事事務委託の見直し等による経費の節減
- 経常損益 : 中期計画を **7億7,821万1千円上回る**
決算を計上 (H22～25年度累計)

⇒独法化後

科 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	【単位：千円】 対H21(%)
経常収益(ア)	20,871,101	21,579,089	21,749,301	22,225,082	22,533,124	108.0
経常費用(イ)	21,001,362	20,976,307	21,809,528	21,892,334	22,519,532	107.2
経常損益(ア－イ)	▲ 130,261	602,782	▲ 60,227	332,748	13,592	-
中期計画経常損益	-	▲ 89,363	▲ 72,345	77,814	194,578	-

【参考】運営費負担金の推移(独法化前後4年間で **12億5千6百万円減少**)

【単位：百万円】

H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
6,056	6,023	5,770	5,620	5,329	5,214	5,673	5,280	5,100	5,100	5,100

※H21は、独立行政法人化に伴う出資金を除く



地方独立行政法人化を総括 ⇒ メリット・デメリット比較

【主なメリット】

○ 職員採用の自由化

職員の定数化から、医療需要や医療の質の向上を図るための採用へ

□全体…………… 行政組織からの脱却と医療を提供する専門組織への転換

・看護職員…………… 7対1看護配置の取得【須坂】

休止病棟の再開【須坂7階】

離職率の低下【H21(機構発足前) 11.3% ⇒ H25 5.1%】

・コメディカル…………… 病院機能にふさわしい専門資格の取得、医療技術の向上を促進

・事務職員…………… 診療報酬制度の理解、財務分析などの経営ノウハウの蓄積により、
経営の視点から病院運営に貢献

安全で質の
高い医療の
提供に寄与

○ 経営マインドの醸成(目標管理の徹底)を通して黒字経営に寄与

- ・理事会における外部理事との検討を通じて経営マインドの醸成
- ・月次決算の評価などの目標管理の徹底
- ・経営改善事項を職員が共有化

○ 意思決定の迅速化

ほぼ毎月の理事会の開催、病院ごとに管理者会議などをほぼ毎週開催し、方向性や課題を検討

・中期計画を上回る経営改善

・医療の質の向上

・県民への説明責任の機会の増

独法化のメリットは“大”

【デメリット】

- 業務量の増大：地方独立行政法人として行わなければならない業務の増大



平成26年度の新規事業・拡張事業

1 地域医療、高度・専門医療の提供

須坂病院

- ・内視鏡センターの機能拡充によるがんの早期発見、早期治療の開始 ⇒ 内視鏡センター(H27.7完成予定)
- ・地域包括ケア病棟の開設準備 ・歯科口腔外科の開設に向けた検討
- ・「病院機能評価3rdG : Ver1.0」を受審 ・「人間ドック健診施設機能評価Ver3.0」を受審

こころの医療 センター駒ヶ根

- ・地域生活支援機能の強化 ・地域連携室の機能強化
- ・在宅医療のIT化(モバイルPCによる医療情報参照・入力)の推進
- ・新たな薬物療法の開始(治療困難な統合失調症患者への新たな治療の提供)
- ・医療の質のさらなる向上・強化(医師・看護師の教育担当職員の配置、精神科研修・研究センター設立検討)

阿南病院

- ・「地域医療総合支援センター」として「健康管理センター」、「へき地医療研修センター」、「認知症なんでも相談室」の設置
- ・常勤の整形外科医の配置 ・リハビリ部門に作業療法士を配置
- ・巡回・訪問診療機能の強化(携帯型X線装置、超音波診断装置及びモバイルPC等を活用)
- ・病理部門における迅速診断の運用(信大病院との連携強化)

木曽病院

- ・「地域がん診療病院」の指定に向けた要件整備 ・糖尿病治療の充実
- ・訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション機能の強化・充実
- ・医師、看護師確保対策 ・開院50周年記念事業の実施

こども病院

- ・救急医療体制の充実(病院間連携及び病院間搬送事業体制の充実・強化)
- ・在宅人工呼吸器装着患児の救急情報連絡カードの運用
- ・小児等在宅医療連携拠点事業による医療・福祉ネットワークの構築
- ・小児アレルギー専門外来の開設(「食物アレルギー診療チーム」の設置による)
- ・成人先天性心疾患外来の開設(成人移行患者の診療機能充実 H26年度循環器センターを設置)

信州木曽看護 専門学校

- ・地域医療を担う看護師の養成

2 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

医療安全対策

- ・インシデント事例から県立病院共通の分析項目を抽出し、改善のための取組の実施及び医療の質を評価する項目の設定を検討



第2期中期計画に向けての課題 — 須坂病院 —

第2期中期計画に向けての課題

- ① 超高齢社会を見据えた地域医療ビジョンへの対応
- ② 内視鏡・遺伝子検査・健康管理・感染症等の各分野におけるセンター化構想
- ③ 感染症診療センター機能の充実と啓発活動
- ④ 総合診療専門医の育成
- ⑤ 安定した経常収支の実現

課題への対応の方向性

- ① 急性期から在宅までカバーする体制を整備
- ① 地域包括ケア病棟の開設（近隣の急性期病院との連携）
- ① リハビリテーション機能の拡充に向けた、具体的な計画と人材確保（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等）、育成体制の構築
- ② 特徴ある機能による技術水準の向上、情報発信による診断治療効果の向上
- ③ 病原体の遺伝子検査など高度な検査機能の充実と、多剤耐性菌対策や新型インフルエンザ等の集団発生に備えた体制を整備。併せて感染症予防の認知を高めるための啓発活動を推進
- ④ へき地医療に従事する医師などの医療者育成を本部研修センターと協力して推進し、併せて信州型総合医育成プログラム認定医療機関として総合診療医の育成に努める
- ⑤ 組織体制を強化し、安定した経常収支を実現し、病院の持続的発展を目指す



第2期中期計画に向けての課題

— こころの医療センター駒ヶ根 —

第2期中期計画に向けての課題

① 医療機能の更なる充実

② 医療人材の確保・育成

③ 経営改善等の取組

課題への対応の方向性

早期退院と円滑な地域生活移行を推進するため、

① 多職種チーム等による医療体制強化

① 地域との連携、地域生活支援の充実

① 地域が必要とする認知症への対応

② 医療法による医師配置を一般病床並みにする方向性が打ち出された厚労省検討会(平成24年6月)の結果を踏まえ、引き続き医師の確保を推進

② 新卒看護職員の採用

② 精神科研修・研究センターの設置検討

③ 病床利用率や病床回転率を高め、より多くの患者さまに利用いただく

③ 病院機能評価の認定取得(H27年9月受審予定)



第2期中期計画に向けての課題 — 阿南病院 —

第2期中期計画に向けての課題

- ① 地域医療総合支援センターの充実
- ② 医師確保による診療機能の充実
- ③ リハビリテーションの充実
- ④ 医療機器の更新
- ⑤ 電子カルテの有効活用
- ⑥ 経営改善等の取組

課題への対応の方向性

- ① へき地医療研修センター開設と信州型総合医の養成
- ① 東館1階の改修と認知症カフェ及び院内デイサービスの開設
- ① 健康管理センターの充実、乳児健診等受託の本格的な実施
- ① 下伊那南部地域の包括ケアシステムの構築
- ① 町村保健師の支援と保健予防活動の充実
- ② 高齢化率の高い当地域で必要とされる泌尿器科医の確保
- ② 土曜診療の検討
- ③ 言語聴覚士、作業療法士の必要人員の確保によるリハビリテーションの拡充
- ③ 休日リハビリの検討、小児リハビリの機能の充実
- ③ 維持期リハビリ及び予防リハビリの確立
- ④ 計画的な更新及びリユース活用による機能アップ
- ④ 患者層にあった医療機器の見直し
- ⑤ 巡回診療・訪問診療・施設診療等でのモバイルPCを利用した在宅医療の推進
- ⑥ 経営企画会議による経営強化、収益の確保



第2期中期計画に向けての課題 — 木曽病院 —

第2期中期計画に向けての課題

- ① 急性期医療サービス提供の維持
- ② 慢性期医療の需要増加に対応した医療機能の確保
- ③ 予防医療の推進
- ④ 職員のモチベーションの維持
- ⑤ 病棟再編に向けた課題

課題への対応の方向性

- ① 医療の高度化に伴い専門化、分業化が進展する中、少ないスタッフで広範囲の医療を支えるための人材の確保
- ① 心疾患、脳血管疾患等の診療機能における他圏域との連携・強化
- ② リハビリテーション医療、在宅医療の充実に向けた体制整備
- ② 安全で安定的な透析治療の確保
- ③ 人間ドック、各種検診の拡充
- ④ 少ないスタッフで24時間365日の地域医療を支えるための“高い志”と“たゆまぬ研鑽”意識の醸成
・資格取得支援、人材の有効活用、院内外研修等への積極的な支援
- ⑤ 医療制度改革、地域医療ビジョン等を踏まえ、休止病棟及び療養病棟(介護保険適用)などの病棟再編の検討



第2期中期計画に向けての課題 — こども病院 —

第2期中期計画に向けての課題

- 1 小児重症患者の治療室(PICU等)の充実
 - ① 少子化の中、地域病院では小児重症診療を担うことが困難となりつつある状況
 - ② こども病院に患者が集中。小児集中治療室(PICU)の満床状況が問題化
- 2 常勤医の確保による診療機能の充実
こども病院において需要が高い耳鼻科の医師が非常勤

課題への対応の方向性

- 1 長野県の小児重症患者にかかる診療体制の強化
 - ① 小児救急医療連携強化病院及び連携病院の機能の維持向上のための支援
 - ② PICU病床の整備充実
- 2 子育て中の女性医師のライフスタイルにあわせた勤務形態による常勤化を検討(25年度には有期短時間勤務職員制度を活用してリハビリテーション科の女性非常勤医師を常勤化)



第2期中期計画に向けての課題

— 信州木曽看護専門学校 —

第2期中期計画に向けての課題

- ① 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力を育成する教育内容の段階的な充実
- ② 教員の安定的な確保及び教育力の向上
- ③ 学習意欲・目的意識の高い学生の確保
- ④ 学生の学習環境・生活環境の整備及び充実
- ⑤ 教育活動を支える学校運営体制の構築

課題への対応の方向性

- ① 地域への愛着を育む科目等の工夫・展開・改善、基礎学力の向上をはかる少人数制を活かしたサポート体制、基礎的実践力を育むシミュレーション教育内容等の充実
- ② 経験豊富な教育者の確保、計画的な臨床看護師との人事交流、学会・講習会等への計画的参加
- ③ 近隣地域を主とする高等学校等への積極的な周知、その他多様な方法でのPR活動の実施、
- ④ 3年課程にふさわしく且つ魅力的な教育を展開できる学習環境の整備、並びに木曽地域外からの受験生の確保及び入学者が学びやすい環境として不足する学生宿舎の整備等を進める
- ⑤ 学校事務・経営基盤の整備及び人材の育成、県立病院機構の運営する学校としての組織体制の整備を進めるとともに、地域及び関係機関との交流、連携・協力体制の構築を進める



第2期中期計画に向けての課題

— 本部・研修センター —

第2期中期計画に向けての課題

- ① 病院機能にふさわしい人材の育成
- ② 安定した病院経営
- ③ 研修センター機能の充実・強化
- ④ 研修センターの果たす役割の再評価と啓発

課題への対応の方向性

- ① 優れた医療人材の育成を図るため、管理監督者層をはじめとする各層、各職種を対象とした研修の充実
- ② 職員の業務への意欲や成果に応える人事給与制度づくりを推進
- ② 原価計算によるコストの見える化を目指し、コスト意識の定着と改善の実施
- ③ 県内医療機関の質の向上に寄与できる研修センター棟の建設の検討
- ④ 研修の統括、立案、フォロー等、果たすべき機能を整理し各種研修や研修医受入体制等の更なる強化を推進
- ④ 県内医療機関との連携の推進

